

大館能代空港は、県が管理、運営する滑走路2,000メートルの第三種空港。建設地は鷹巣町大野台中屋敷付近で、総事業費は約200億円。



高速交通時代の

幕開け

これまで、大館を含めた県北は高速交通体系後進地といわれてきました。しかし、ここ半月余りの間に大館能代空港の第六次空港整備五カ年計画への組み入れが決定したり、日本海沿

岸東北自動車道の大館—小坂間が予定路線から基本計画路線に格上げされたりと、高速交通時代の光が差し込んできました。今後、これらの建設実現に向けて運動を展開していきます。

大館能代空港

県北地域、三十万人の悲願であった「大館能代空港」の第六次空港整備五カ年計画（平成三十七年度）組み入れが、十一月二十九日の閣議で決定しました。

昭和六十二年に県北空港建設促進期成同盟会を、平成元年に県北空港建設期成大館地域推進会議を結成し、空港空白地帯解消と全国一日交通圏参入を目指し、官民一体となって百回に及ぶ陳情活動を展開してきました。また、三十三万人から署名をいただいたほか、フライト預金運

大館能代空港

計画組み入れまでの軌跡

昭和62年

- 8月・秋田県北空港建設促進期成同盟会を県北十八市町村長、議会議長で設立
- 9月・県議会が高速交通体系等整備促進特別委員会を設置

昭和63年

- 2月・同盟会が知事へ陳情
- 9月・県が空港適地調査に着手
 - ・同盟会組織を拡大—南秋田郡と青森県の二町村、商工会議所、商工会、農協、漁協、青年会議所が加わりました
- 11月・同盟会が山形県の庄内空港を視察
- 12月・同盟会がPR用のシンボルマークとキャッチフレーズを公募、決定—「見えるでしょ 風がロマンが 空港が」

平成元年

- 3月・県の空港適地調査終了
- 4月・県が空港建設候補地を「鷹巣町大野台中屋敷付近」に決定
- ・同盟会が大野運輸大臣へ

初めての陳情

- 8月・県が県北空港調査専門委員会を設置
- ・同盟会がPR用のボックスステイッシュと丸シールを複製、配布

10月・県が滑走路配置案を決定

- 11月・同盟会が県北地域の誘致企業に対して県北空港の説明会を開催
- ・同盟会が鷹巣町で早期実現総決起集会を開催—二千五百人が参加しました



鷹巣体育館で開催された総決起集会

- 12月・秋田県北空港建設期成大館地域推進会議を設立

平成2年

- 1月・同盟会が街頭署名運動を実施